

ひだか社協だより
2023.10
HIDAMARI

ひだまり



— 特集 —

誰かにチカラを提供し続ける存在 プロダクティブエイジング



No.126

写真:彩の国ボランティア体験プログラム2023inHIDAKAより保育体験の様子



ひだか社協だより「ひだまり」は、共同募金の配分を受けて発行しています。社会福祉協議会は、地域福祉をすすめる団体です。

令和4年度事業報告

コロナ禍による影響が続く中、感染拡大防止に努めながら事業運営を行いました。

重点的に取組を進めたテーマの中から、成果の一部を抜粋してご報告します。

安心して外出、交流できる地域づくり

①地域おたすけ隊の取組実績

市内5カ所で開催している地域おたすけ隊の取組として、令和4年度の支援件数は3317件、支援時間は4198.5時間でした。支援時間数のうち、約3000時間は車を使った移動支援でした。病院受診や買い物支援など、車を使った移動支援のニーズが高まっています。

②サロン活動

サロン活動登録数は、市内27カ所となり、子ども食堂など食事を介した活動も増えました。

コロナ禍における生活課題への対応

経済的に困りになった世帯等への生活福祉資金の特例貸付が令和4年9月で終了となり、令和5年1月から貸付金の償還が開始されましたが、物価高騰の影響もあり、償還が困難な世帯からの相談件数の増加や食の支援を必要とする世帯が増加しました。

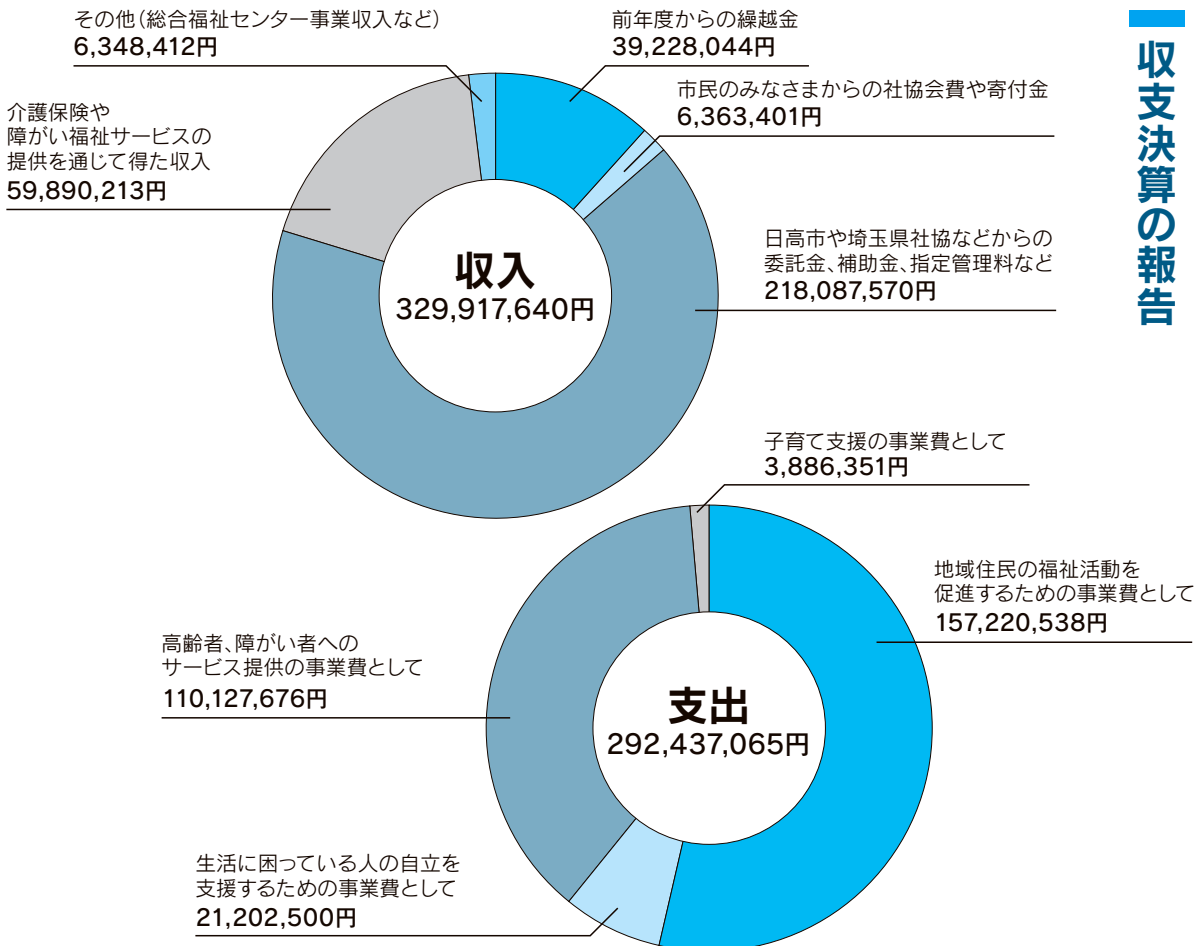
食の支援を必要とする世帯に対し、緊急一時的な支援や、年8回開催のフードパントリーにて、延べ1099世帯へ食料の提供を行いました。

生活支援サービスの充実

①ヘルパーステーションこまの郷及びこまのさと作業所の虐待防止委員会設置要綱の制定と委員会の開催をしました。

②ファミリーサポートの取組として、援助活動実施回数は、延べ1161回となり、前年度の約5.8倍となりました。

収支決算の報告



○令和5年度事業計画

3つの重点取組

「支え合いで、共に生き、誰もがつながる地域づくり」を進めるため、法人運営基盤の強化と地域共生社会の実現に向けた各種事業を推進します。

重点取組1 誰もが役割を持ち、生きがいと尊厳を持って活躍できる場づくり

具体的には…

- (1) 地域福祉の担い手育成・支援
- (2) アクティブシニアの社会参加促進
- (3) 地域での居場所づくり支援

地域おたすけ隊の取組を
特集しています。
P.4～をご覧ください。



重点取組2 「他人事」ではなく「我が事」として考える地域づくり

具体的には…

- (1) 地域福祉意識の普及啓発促進
- (2) 地域における孤独・孤立防止の取組の強化
- (3) 地域支え合い体制の構築

生活にお困りのかたへの
フードドライブなどの
取組を、地域のかたと
一緒に進めています。
P.8をご覧ください。

重点取組3 人と人、そして組織をつなぐ包括的な支援体制づくり

具体的には…

- (1) 相談体制強化と関係機関相互の連携強化

○令和5年度予算

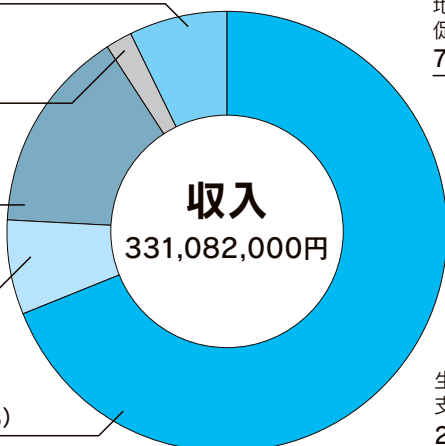
その他の収入や繰越金など
21,914,000円(7%)

市民のみなさまからの
会費や寄付金、募金
5,897,000円(2%)

障がい福祉サービスに
よる収入
50,904,000円(15%)

介護保険サービスに
よる収入
22,667,000円(7%)

県、市、県社協、共同募金会
からの収入
229,700,000円(69%)

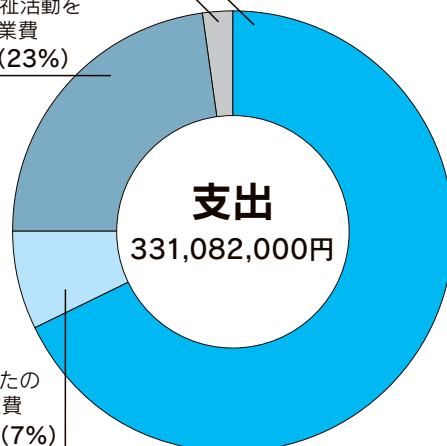


子育て支援の事業費
6,203,000円(2%)

地域住民による福祉活動を
促進するための事業費
77,272,000円(23%)

生活にお困りのかたの
支援のための事業費
23,799,000円(7%)

高齢者、障がい者への
サービス提供の事業費
223,808,000円(68%)



誰かにチカラを提供し続ける存在

引用文献：澤岡詩野「豊かに年を重ねるための百人力の見つけ方」カナリアコミュニケーションズ

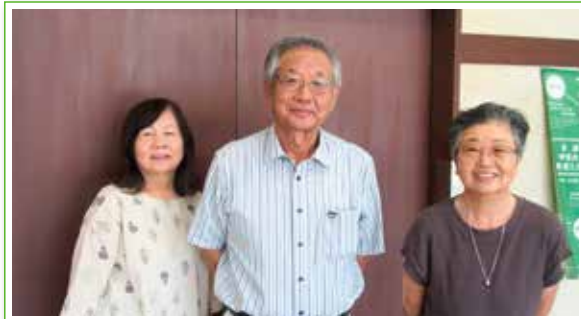


▲日高団地地域おたすけ隊
左から石井さん、小川さん、小島さん

▶武蔵台地域おたすけ隊
上段左から成澤さん、浜路さん、阿部さん、砂山さん
下段左から中曽根さん、進藤さん、新開さん



▲たかね地域おたすけ隊
左から長尾さん、日野さん、結城さん、藤平さん



▲原宿地域おたすけ隊
左から齋木さん、奥平さん、福山さん



▲高麗地域おたすけ隊
左から潮田さん、大野さん、加藤さん、加藤さん

地域おたすけ隊

ある協力会員さんのお話
自宅に引きこもり、精神的な苦痛から髪が抜け落ち、体調も悪かったWさん。地域おたすけ隊から声をかけてもらい、協力会員として少しずつ人と関わり、今では、そんな過去があったとは思えないほど、すっかり元気になり「人間改革ができて本当に感謝している」と話すかたがいました。活動することで心にも体にも影響を与え、そのかたの大きなチカラとなっています。

地域おたすけ隊は、チカラを提供し続ける存在でもあり、「本当にありがとう」「たすかった」の利用会員さんのお礼の言葉もまた、地域おたすけ隊のチカラになります。

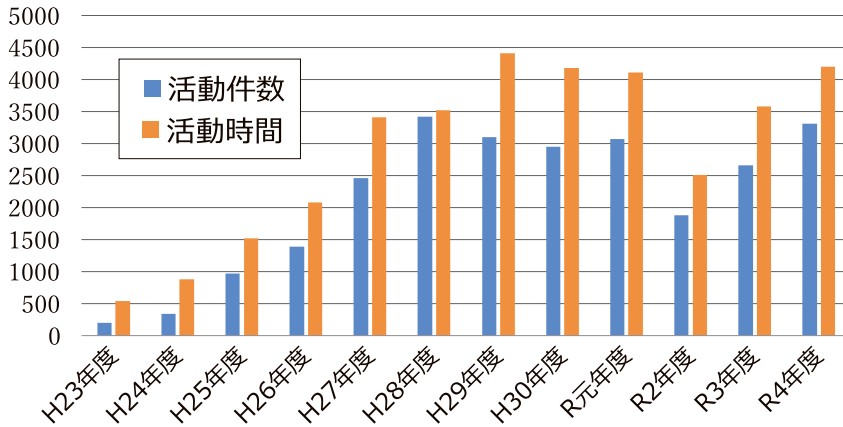
日高市では、平成23年度から現在に至るまで、地域のかたのちょっとした困りごとをボランティア精神で、30分300円でお手伝いする地域の支え合い活動（地域おたすけ隊）があります。

地域おたすけ隊の主な活動内容と実績

- 買い物代行
- 家具の移動や模様替え
- 外出の付添
- ゴミの梱包やゴミ捨て
- 草むしりや庭の簡単な手入れ
- など

できる時にできる事をできる範囲で、地域のかたの「ちょっと困った」を、お手伝いする地域おたすけ隊の活動は、**おたがいさまの気持ち**を行動でひろげるまちづくり活動です。

地域おたすけ隊 初年度～令和4年度までの活動実績

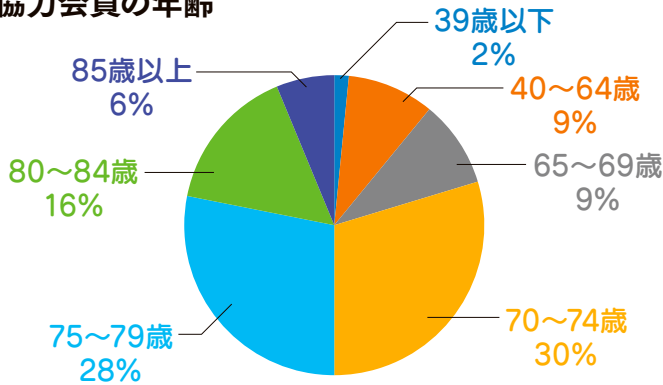


地域おたすけ隊協力会員随時募集

問合せ・申込 日高市社会福祉協議会 042-985-9100

協力会員

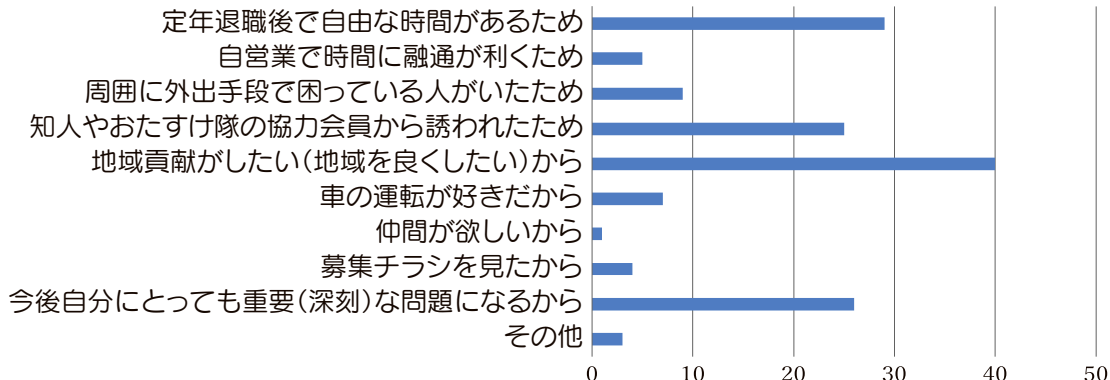
協力会員の年齢



現在、地域おたすけ隊は「武蔵台」「日高団地」「たかね」「原宿」「高麗」の5隊あり、協力会員は、163名 利用会員は、856名が登録しています。(令和5年7月現在)

昨年度、地域おたすけ隊の協力者に対して活動に関するアンケートを実施しました。回答数：64名

どうして活動に参加しようと思ったのですか？



こまのさと作業所 グループ外出プログラムについて

6月12日に3年間コロナ禍で中止していた少人数での外出プログラムに行ってきました。当初の予定では東武動物園へ行くはずでしたが、あいにくの雨で急遽鉄道博物館へ行ってきました。久しぶりのお出かけにおやつを持参しみんなウキウキでした。普段と違い外で食べるランチは格別のようにとても美味しく食べていました。最後には家族へのお土産を真剣に選んで買っていました。今年度は1人1回のグループ外出なので、まだ行けていない利用者は今から「どこ



行くのかな」と楽しみに待っています。こうした社会体験を通して利用者のリフレッシュ、生活・社会スキル向上に繋がればと思っています。



日高市総合福祉センター 壁面ギャラリーで展示をしました!

令和5年6月1日から6月30日にかけて、総合福祉センターの壁面を利用し、小さな美術館切り絵教室の切り絵を展示しました。また、7月2日から8月31日にかけて、書道連盟の作品を展示しました。今後も作品展示については、適宜募集しています。詳しくは、日高市社協ホームページをご覧ください。



小さな美術館切り絵教室のみなさまの展示



書道連盟のみなさまの展示

地域からの話題

日野自動車労連より栗の実福社会へ 車輛の寄贈がありました

日高市原宿にある埼玉工業労働組合が加入している日野自動車関連労働組合連合会は、6月6日に社会福祉法人栗の実福社会むさしの日高作業所にトヨタハイエース1台を寄贈しました。

車両については、作業所から駅を往復する送迎等に利用予定とのことです。



日高市委託事業 家族介護教室 “いまから学ぶ おうち介護教室”を開催しました。

会場	開催日	講師
高麗の郷	①令和5年6月28日(水)	高麗川地域包括支援センター 内野氏、春日氏
	②令和5年7月 5日(水)	ヘルパーステーションこまの郷 宗像氏、福井氏
高萩公民館	①令和5年7月12日(水)	高萩地域包括支援センター 瀧澤氏
	②令和5年7月19日(水)	友結会ふるさとけあ 吉澤氏、江花氏
武蔵台公民館	①令和5年7月26日(水)	高麗地域包括支援センター 水元氏
	②令和5年8月 2日(水)	友結会ふるさとけあ 木島氏、加藤氏

①講話：
介護保険と地域包括支援センターと認知症についての情報提供と解説。

②体験教室：
介護の心がまえと緊急時の備えについての講話と介護用ベッドと車いすを使用しての介助体験。



参加者の感想(延べ人数95人)



- ・地域包括支援センターの役割と相談窓口と知れてよかった
- ・介護保険の仕組みが理解できた
- ・認知症のことが知ることが出来た
- ・介護保険制度、認知症についてもっと詳しく知りたい

講話

体験

- ・介助される側、する側の気持ちが理解できた
- ・車いす、介護用ベッドの使い方を学べました
- ・介護についての話し合いが大切なことがわかった
- ・福祉用具について知りたい



教室を開催してみてもいい

個々の事情や状況が様々で、地域包括支援センターが相談窓口の役割を伝えられたことは大きな目的達成と考えます。いずれの会場も講師の分かりやすい説明、参加者の質問に対する的確な応答を頂き、将来、又は現在の介護に対する不安解消に少しでもつながればと思える教室となりました。

認知症についての不安は参加者の関心事となり今後も主題の一つと考えられます。

しかしながら地域包括支援センターや介護保険制度への認識不足が否めないことから、周知を継続していく必要があると感じました。

傾聴ボランティア養成講座

目的：傾聴に必要な基礎知識と技術を学び、傾聴によるボランティア活動者を養成します。

1日目：令和5年10月31日(火) 10:00～15:00

2日目：令和5年11月 6日(月) 10:00～16:00

★10月10日(火)から申し込みスタート!

会場：総合福祉センター「高麗の郷」(楡木201)

対象：日高市内で傾聴ボランティア活動できるかた

定員：20名(定員に達した時点で申し込みを締め切らせていただきます)

費用：無料

講師：特定非営利活動法人埼玉カウンセリングセンター 代表理事 高倉恵子氏

問合せ・申込：日高市社会福祉協議会 地域福祉課
☎042-985-9100

第42回福祉スポーツ大会を実施しました。

6月4日(日)に日高市文化体育館「ひだかアリーナ」で第42回福祉スポーツ大会を開催しました。

参加者は、ボランティア等も含めて約350名が参加しました。

競技は、障がいのあるかたや、ボランティアさんと一緒に玉入れ、パン食い(取り)競走、レクダンスなどを行いました。

4年振りの開催となり、みなさん活気にあふれ、楽しまれました!

ご協力いただいたみなさん、ありがとうございました!!



あいあいまつりを開催します。

令和5年10月7日(土) 10:00～15:00

総合福祉センター「高麗の郷」内であいあいまつりを開催します。

模擬店や体験コーナー、スタンプラリーを実施予定です。ご参加、お待ちしております。

日高市障がい者創作活動 合同作品展2023

市内で生活をしている障がい者のかたたちの表現活動をサポートし、障がいの有無に関わらず、多様であることを認め合うことができる、創作活動を通じて社会参加の機会を得て、市民のかたに作品を見て感想をいただく機会の提供を目的に開催します。

日時：12月8日(金)～10日(日)
10:00～15:00

場所：総合福祉センター高麗の郷エントランス

問合せ：日高市障がい者相談支援センター
☎042-978-7681

～歳末たすけあい事業～

見守り・安否確認

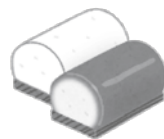
「おせちセット」配達

民生委員・児童委員による見守り等の日常的な支援を必要とする65歳以上の高齢世帯のかた、または一人暮らしの障がい者のかたで、次のいずれかの要件に該当するかたが対象となり、民生委員・児童委員等が見守りと安否確認を兼ねて「おせちセット」をお届けします。

- ①杖や歩行器などの補助用具がないと歩行が困難なかた
- ②判断能力の低下によりご自分で買い物に行くことが困難なかた
- ③身体障がい者手帳1・2級、療育手帳A・A、精神障がい者保健福祉手帳1・2級のいずれかを所持するかた
- ④難病や特定疾患のあるかた

配達日：令和5年12月28日(木)午前中

※お届け時に必ず在宅していただき。



【申請方法及び提出期限】

担当の民生委員・児童委員から申請書を受け取り、必要事項を記入したうえで10月13日(金)までに担当の民生委員・児童委員へ提出してください。申請後、審査のうえ配分決定しますので配分されないこともありますので予めご了承ください。

【問合せ】地域福祉課 ☎042-985-9100

食料品等の寄付をありがとうございます

お米、野菜、インスタント食品等たくさんのご寄付をいただきました。

令和5年4月1日～7月31日受付分

【団体】たかねサロン様、自由の森学園ボランティア部様、市内企業様

【個人】岡村美津枝様、新井多恵子様、船戸真理子様、山口じゅん様、紙愛様、
地域のかた14名様

これまでも、みなさまからたくさんの食料品等をご寄付いただいております。この場を借りて改めてお礼申し上げます。

※いただいた食料品等は、食の支援を必要とする世帯や団体等にお渡ししています。定期的にフードパントリー（食品提供）も実施しておりますので、詳しくは日高市社会福祉協議会のホームページもしくは、お電話にてご確認ください。



岡村美津枝様

埼玉県県下一斉

令和5年10月1日～11月30日

フードドライブキャンペーン

フードドライブとは、家庭で余っている食品を集め、食の支援を必要とするかたへ寄付する活動です。提供していただける食品がありましたら下記までお願いいたします。

受付可能な食品: 米、缶詰、レトルト食品などで常温保存可能、未開封、賞味期限が2ヶ月以上あるもの。

受付できない食品: 生鮮食品、冷凍品等

受付・問合せ先: 日高市社会福祉協議会

☎042-985-9100

(総合福祉センター「高麗の郷」内)

受付時間: 午前9時～午後5時※土日祝日をのぞく



学費などでお困りのかた、学びたい気持ちを応援します!

教育支援資金貸付のお知らせ

学費等の捻出が困難な低所得世帯の学生に対し、教育支援資金(無利子)を実施しています。
【対象世帯】世帯の収入が一定の基準以下の世帯 ※地域・家族構成等で基準が異なります。

【対象となる学校と貸付金額】

	貸付上限額・主な用途			
	教育支援費		就学支度費	
高校	35,000円/月	授業料・ 通学定期代等	500,000円 ※入学時のみ	入学金・制服代・ 教科書代等
短大・専門学校	60,000円/月			
大学	65,000円/月			

～利用にあたっての留意点～

- ①修学する本人が申込者、世帯の生計中心者が連帯借受人となります。
- ②本貸付より優先してご利用いただく奨学金(他制度)があります。
- ③受験する学校が決まっていれば、入学(合格発表)前でも申込みができます。
- ④申込は1年ごとです。
- ⑤貸付には審査があります。

【返済期間】20年以内

【相談・申込窓口】日高市社会福祉協議会 ☎042-985-9100

【実施主体】埼玉県社会福祉協議会

10月1日より赤い羽根共同募金運動が始まります!

赤い羽根共同募金とは

共同募金は、戦後間もない昭和22(1947)年に、市民が主体の民間運動として始まりました。当初、戦後復興の一助として、被災した福祉施設を中心に支援が行われ、その後、法律(現在の「社会福祉法」)に基づき、地域福祉の推進のために活用されてきました。

社会の変化のなか、共同募金は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を応援する、「じぶんの街を良くするしくみ」として、取り組まれています。



募金のながれ

ご家庭・職場・学校・街角にてご協力いただきました募金は、埼玉県共同募金会に全額送金します。その後、日高市支会募金実績の50%が翌年度に日高市社協に配分され、市内のさまざまな地域福祉活動に役立てられます。残りの50%は、埼玉県内の福祉施設や被災地支援のために使われています。

募金の使い途

令和5年度、日高市社会福祉協議会では、赤い羽根共同募金を活用し次の事業を展開しています。

- 福祉スポーツ大会(スポーツを通じて健康増進を図るための取組支援)
- 児童遊園地遊具の点検・整備
- 訪問カットサービス
- 暮らしの安心相談事業
- フードバンクの運営

